お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

健全な企業の3つの条件 **ヘンリー・ミンツバーグ (カナダ・マギル大学デソーテル経営大学院教授)**

1. 私は、すべての企業や組織はコミュニティとして機能すべきだと考えます。新しいアイデアや人間関係が生まれるのはコーヒーマシンの前や給湯室など、人と人が偶然に出会って会話する空間なのです。だからこそ人々はオフィスでより多くの時間を共有する必要があります。それが、企業内にコミュニティを再構築するための方法であり、とても大切なことだと思います。在宅勤務に頼ってはいけません。
2. 人間には基本的に3つのニーズがあります。「保護」と「消費・報酬」、そして「所属・つながり」です。政府が保護を提供し、ビジネスが消費や報酬を提供し、そしてコミュニティが所属やつながりを提供する。企業もこの3つを内包すべきなのです。
3. 日本企業には昔から従業員を保護する文化がありました。報酬の面でも、日本の労働者はある程度報われていました。そして何より、企業がコミュニティとして機能していました。つまり、この3つのバランスを企業内にも実現することが、健全な企業の条件となるのです。
(参考:「日経ビジネス」2025年6月16日)

経営者のための理念・哲学

人間には「至徳要道」という宝がある

田口佳史 (東洋思想研究家)

1. 『礼記』に、「孝子 (こうし) の深愛 (しんあい) 有る者は必ず和気 (わき) あり」とあります。意味は、「父母を真に深く愛する孝行の人は、必ず和気、なごやかであたたかい気がただよう」です。戦後日本経済をリードした土光敏夫は、自社の人事部長に、「孝行者を採 (と) ってくれ」としきりに言ったそうですが、こうした人柄の持ち主であればどの会社も欲しい人材ではないでしょうか。
2. 孝行といえば中江藤樹が有名ですが、その藤樹の名著『翁問答』には、孝行について記されています。例えば、「天君 (てんくん) という先覚者と「体充 (じゅうそく) という弟子の間答対話があります。体充が「人間が一生で従うべきは、どのような道でしょうか」と問い、天君が「われわれ人間には至徳要道 (しとくようどう・徳の至りという重要な道)、という天下無双の靈宝がある。この宝を守り、全ての行いの要点とすべき」と説きます。
3. この宝を求め学ぶために語ったのが『孝経』です。この「孝」という「徳の至り」が働いて人の心に通じるのは、「孝」が「愛と敬」から成り立っているからだと思います。
(参考:「致知」2025年9月号)

経営者のための危機管理

消えゆく日本の上場企業

1. 経済産業省は、企業価値を高め株主の利益になるM&A (合併・買収) の活性化を目指し、2023年に企業買収の指針を初めて公表。これに呼応するかのようには東証も、上場企業に資本コストや株価を意識した経営を促す改革を矢継ぎ早に打ち出している。
2. こうした改革によって日本の資本市場は開国。資本効率やガバナンス意識が低い日本企業の株価上昇余地が大きいと踏んだアクティビストたちが、続々参入しているのだ。今や日本の株式保有比率は、海外投資家が30%超でトップに立つ。こうした流れを目の当たりにし、非公開化の道を選ぶ企業も急増。24年の非公開化件数は94社と過去最多だ。
3. 今や日本は、米国に次ぐ「アクティビスト大国」だ。背景にあるのは、日本の資本市場の閉鎖性に不満を持っていた海外投資家からのプレッシャーを受ける形で、国と東京証券取引所が進めている市場開放だ。その結果、アクティビストの登場が呼び水となり、M&Aや業界再編、非公開化などを通じて、上場企業の退場が相次ぐ。日本の資本市場は「上場企業クライシス」と呼べる激変期に突入している。
(参考:「週刊東洋経済」2025年6月28日号)

古典に学ぶ

精進を怠らない

1. 人生のゴールは命が尽きる時です。それまで自分の姿をしっかりと見つめ、至らなさを認めて、自分自身を磨いていきましょう。
2. 努力は一生続くと思ひ定め、精進を怠らない。己の限界を超えて秘めた能力を開発させられる方法があるとしたら、この姿勢をおいてほかにないでしょう。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)